[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

日本新薬（コード 4516）

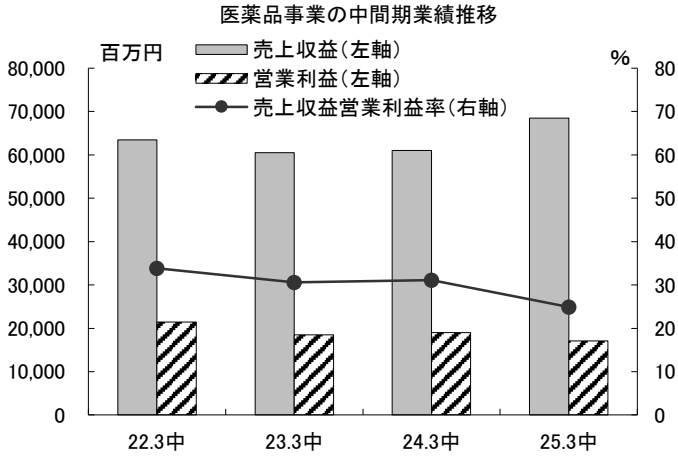
◆各決算期の中間期業績推移(連結)

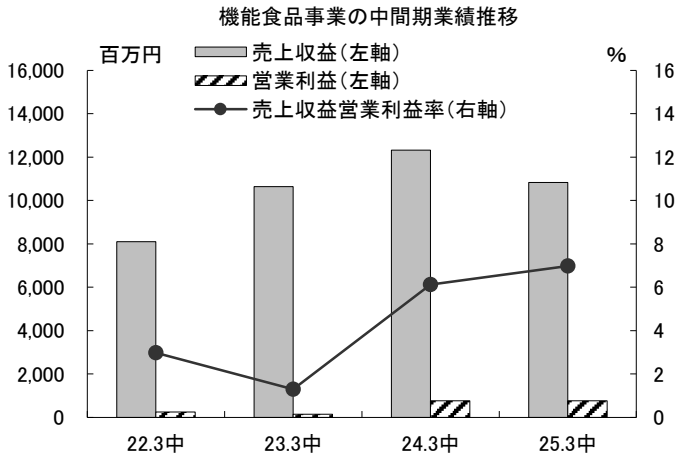
決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	71,136	19,161	226.0	57.0	12,817	▲5,882	▲4,911	63,449
24.3	73,314	20,878	240.2	62.0	7,938	▲1,693	▲4,685	62,855
25.3	79,332	17,867	243.1	62.0	17,732	▲13,340	▲4,996	56,387

◆通期業績推移(連結)（25.3 予は会社側発表値）

決算期	売上収益	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
23.3	144,175	30,049	338.7	114.0	26,170	▲17,631	▲9,605	60,047
24.3	148,255	33,295	383.8	124.0	16,289	▲9,921	▲9,719	58,094
25.3予	157,000	33,000	445.2	124.0	―	―	―	―

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）



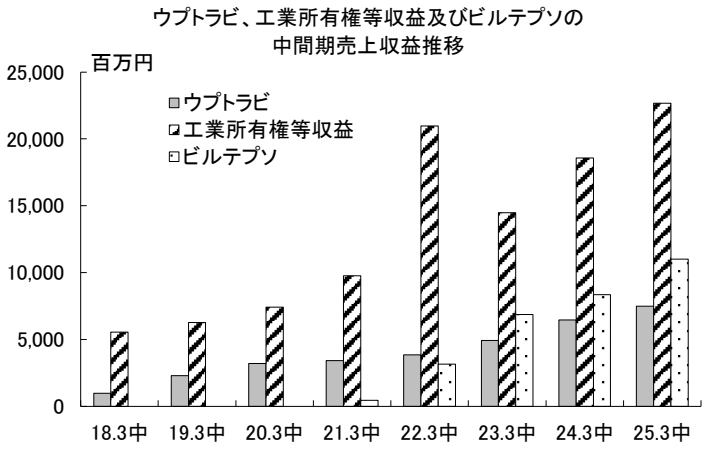


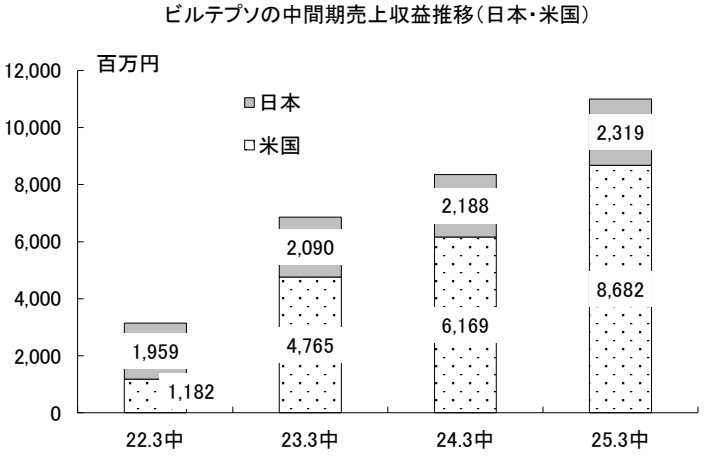
25 年 3 月期中間期の業績概況…25 年 3 月期の中間期（24 年 4～9 月）は、医薬品事業で「ウプトラビ」（肺動脈性肺高血圧症・慢性血栓塞栓性肺高血圧症治療剤）の国内販売及び同製品の海外売上に伴うロイヤリティ収入、「ビルテプソ」（デュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤）などが伸長。加えて、24 年 5 月に発売した「ビキセオス」（高リスク急性骨髄性白血病治療剤）などが寄与（「ビキセオス」は当中間期 22 億 3,600 万円）し、売上収益は前年同期に比べて約 8%増加した。利益面では、販管費や研究開発費の増加などにより、営業利益が約 14%減少した。

当期の業績は、売上収益 793 億 3,200 万円（前年同期比 8.2%増）、営業利益 178 億 6,700 万円（同 14.4%減）、税引前中間利益 181 億 9,800 万円（同 13.9%減）、親会社の所有者に帰属する中間利益 163 億 7,300 万円（同 1.2%増）となった。事業別の売上収益は、医薬品事業が 684 億 9,600 万円（同 12.3%増）、プロテイン製剤などの機能食品事業が 108 億 3,600 万円（同 12.1%減）となり、事業別のセグメント利益は、医薬品事業が 170 億 6,400 万円（同 10.2%減）、機能食品事業が 7 億 5,600 万円（同 0.3%増）となった。売上収益の医薬品事業での内訳は、医薬品 411 億 4,100 万円（同 8.3%増）、工業所有権等収益 226 億 5,500 万円（同 21.9%増）、共同販促収入 47 億円（同 6.7%増）。機能食品事業では、売上収益の半分以上を占めるプロテイン製剤が 68 億 9,300 万円（同 18.8%減）となった。

売上収益の 8 割以上、営業利益の 9 割以上を占める医薬品事業において、主力製品の売上収益は、「ビルテプソ」が 110 億 200 万円（同 31.6%増）に伸び、中間期ベースで初めて 100 億円台を突破。このうち、日本が 23 億 1,900 万円（同 6.0%増）、米国が 86 億 8,200 万円（同 40.7%

増）と、投与患者及び投与希望者数が増加中の米国で大幅な伸びとなった。「ウプトラビ」は国内で 74 億 7,400 万円（同 15.6%増）と好調に推移していることに加え、同製品の海外販売に伴うロイヤリティ収入の伸長により工業所有権等収益も大きく増加。優先審査バウチャー売却という特殊要因で大幅増収となった 22 年 3 月期中間期実績をも超える規模となった。





キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当期末現在の現金及び現金同等物の残高は 563 億 8,700 万円（前年同期末比 10.3%減）となった。営業活動による CF は、税引前中間利益 181 億 9,800 万円（前年同期比 13.9%減）、減価償却費及び償却費 29 億 8,000 万円（同 21.0%増）、営業債権及びその他の債権の減少額 39 億 900 万円（前年同期は増加額 37 億 3,700 万円）、棚卸資産の増加額 37 億 8,100 万円（同減少額 21 億 100 万円）、営業債務及びその他の債務の減少額 15 億 5,800 万円（前年同期比 37.3%減）、法人所得税の支払額 38 億 5,500 万円（同 44.7%減）などにより、177 億 3,200 万円の収入（同 123.4%増）となった。投資活動による CF は、無形資産の取得による支出 107 億 3,900 万円（同 513.3%増）などにより、133 億 4,000 万円の支出（同 688.0%増）となった。財務活動による CF は、配当金の支払額 41 億 7,200 万円（同 8.7%増）などにより、49 億 9,600 万円の支出（同 6.6%増）となった。

25 年 3 月期の通期業績見通し…今期の通期業績については、24 年 8 月 7 日付けの会社側発表値から増額修正され、売上収益 1,570 億円（前期比 5.9%増。修正前 1,540 億円）、営業利益 330 億円（同 0.9%減。修正前 320 億円）、税引前利益 336 億円（同 0.05%減。修正前 325 億円）、親会社の所有者に帰属する当期利益 300 億円（同 16.0%増。修正前 290 億円）の見通し。

事業別の売上高予想は、医薬品事業 1,355 億円（同 8.3%増。修正前 1,325 億円）、機能食品事業 215 億円（同 7.1%減。修正無し）。医薬品事業の内訳は、医薬品 820 億円（同 7.7%増。修正前 813 億円）、工業所有権等収益 441 億円（同 9.4%増。修正前 421 億円）、共同販促収入 94 億円（同 8.6%増。修正前 91 億円）。医薬品事業における主力製品については、「ビルテプソ」が 214 億円（同 22.1%増。修正前 206 億円）で、うち日本が 46 億円（同 4.4%増。修正無し）、米国が 168 億円（同 28.0%増。修正前 160 億円）に。「ウプトラビ」は 150 億円（同 16.1%増。修正前 154 億円）、「ビキセオス」は 46 億円の見込みとなっている。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。